

土居淡山 たにがはら 漢學者、自由民權運動家。弘化四年六月淡路國二原郡倭文村生れ、大正七年十一月十一日歿（八四七一九八）。講光華、字十濟。別號一品花樓主人、景光、淡山仙史、淡山樵仙、土居光、杜居光華、杜居淡山等。森田節齋の師等。維新後岩倉具視侍講、徳島藩費教授、八議人、辯等。明治七年『報國新誌』を創刊、次で北辰社社長。『東海曉鐘新聞』主事、兵庫自由黨總理、二重縣飯高・飯野・多氣二各郡長、衆議院議員等歴任。よみ女子教育、紗落解放などごとく先驅的活動。

著譯書 『近世女大學』（土居光華名、明治九年二月嵩山房）、『偶今

體名家文抄』全二冊（同、編選、明治十年四月十五白山梨・内藤博士

備門刊）、伯克爾著『英國文明史』全八冊（同、菅生奉二共譯、第壹

編一・二冊・明治十一年二月五日、第參編一・二冊・五月二十五日、第五

編一・二冊・八月一日、第六編・十一月二十五日寶文閣藏版）、神田孝

平原著『評點經世餘論』（同、批評、明治十二年十月二十八日版權免許

・正榮堂）、チャスチン、マツカーテー著・曾田夢二郎譯『大英今代

史・卷之一』（同、校、明治十七年一月日本出版會社）、『淡山翁遺

稿』（内題「淡山遺稿」土居言人郎編、大正八年十一月十日結城琢編

刊）等。